

銃後でも 星 千枝

二十二才の青春の頃

芳紀将に二十二才。私にとつては青春の真只中でありました。昭和十八年、母校を半年繰上げ卒業で、「子等行くか九月の二十三日かな」と恩師に送られ、中通りの小さな女学校に就職、一年五ヶ月勤め、漸く二十年の四月、原町高等女学校への転任。相馬商業学校の生徒と小学校の鈴木小松先生が原町紡績工場機械掃射で亡くなつたという話も惨ましく伝えられている頃でした。

郡山の工場や原町紡績工場にも動員日時、原女では四年生は郡山の三年生が原紡へ動員され、遠距離の生徒は学校の西二階に宿泊して原紡へ通つて居りました。一、二年生は農繁期には田植え、稲刈りと駆り出され、授業は合間を縫

つてといつた有様でした。四月の郡山大空襲では富久山工場が爆撃され、原女の生徒も数名生き埋めになり、確とした情報も入らぬまま、学校は右往左往といつた状態でした。幸い死者は出ませんでした。戦いは日々暗雲が漂つて参つたのです。一、二年生のお務めにはこんなこともありました。十時ごろに原町役場から電話がかかつて来るのです。「特攻隊が出発するので見送るよう、前の伝達です。授業を即刻やめて、以前野馬追城のあった御本陣山に駆け登り、原町飛行場から飛び立つ特攻機に手を振るのです。機は私達の上を数回旋回して二度と戻る事のない飛行場を後にして、南の空へ消えて行きました。

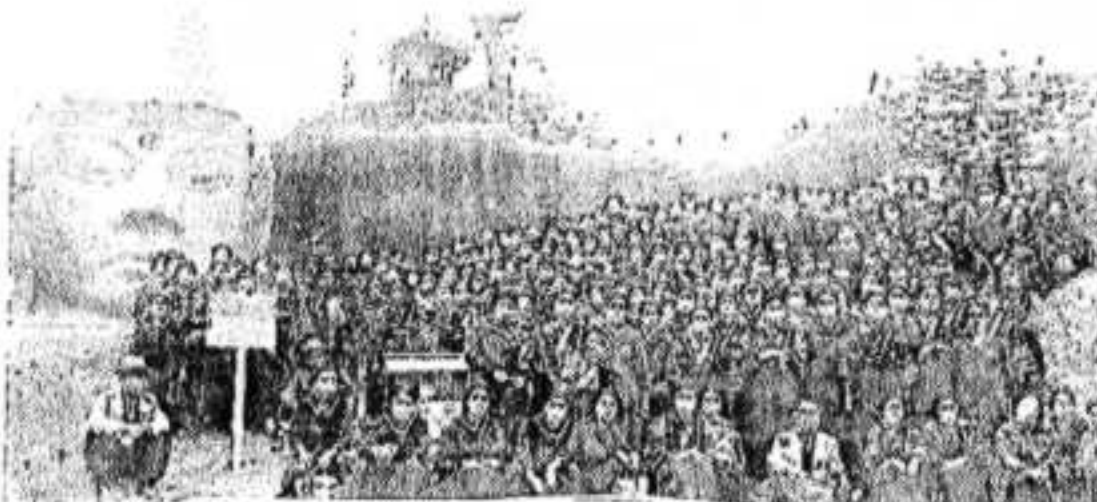
原町大空襲の話になるのですが、十日、私と事務員の塩谷英子さんが日直でした。職員、生徒は休み、斎藤清三校長と網田陸教頭は出勤して居りました。朝から真夏の太陽はジリジリと照りつけて居りました。作業服にズボン、綿の入った防空頭巾、その上から手拭いで口鼻を蔽うべくきつしり縛つて居りました。手には勿論手袋、完全武装です。空襲警報が鳴り響きます。直ちに防壕へ直行です。爆弾が落ちる度にグラグラと体が持ち上げられ生きた心地もしません。三十分程すると一且、グラマン戦闘機は去ります。しかし、波佐沖にいた艦載機からの波状攻撃です。一時間もすると又やつて来るのです。これが五回繰り返されました。原女が爆撃されたそうだからと見に来たお爺さんが、途中で機銃掃射を受け、腕を一本失つたと聞きました。校庭には十二発爆弾が落ちました。校庭に校舎は無事でしたが、不思議にと校舎は散乱しましたが、(裏面へ)

原町高等女学校とは通称**原女**とよばれ、1926(大正15)年から戦後の1948(昭和23)年までの22年間で、1,307名の卒業生を送り出した原町町立の女学校。修了年限は4年、定員200名、各学年2学級で、現在の原町第一中学校のところにありました。

前半の昭和初期はのんびりと古き良き時代でしたが、後半は戦争に巻き込まれ悲惨な時代でした。昭和23年4月、戦後の学制改革で相馬商業学校に統合され、校舎も新制の原町中学校に引き継がれました。

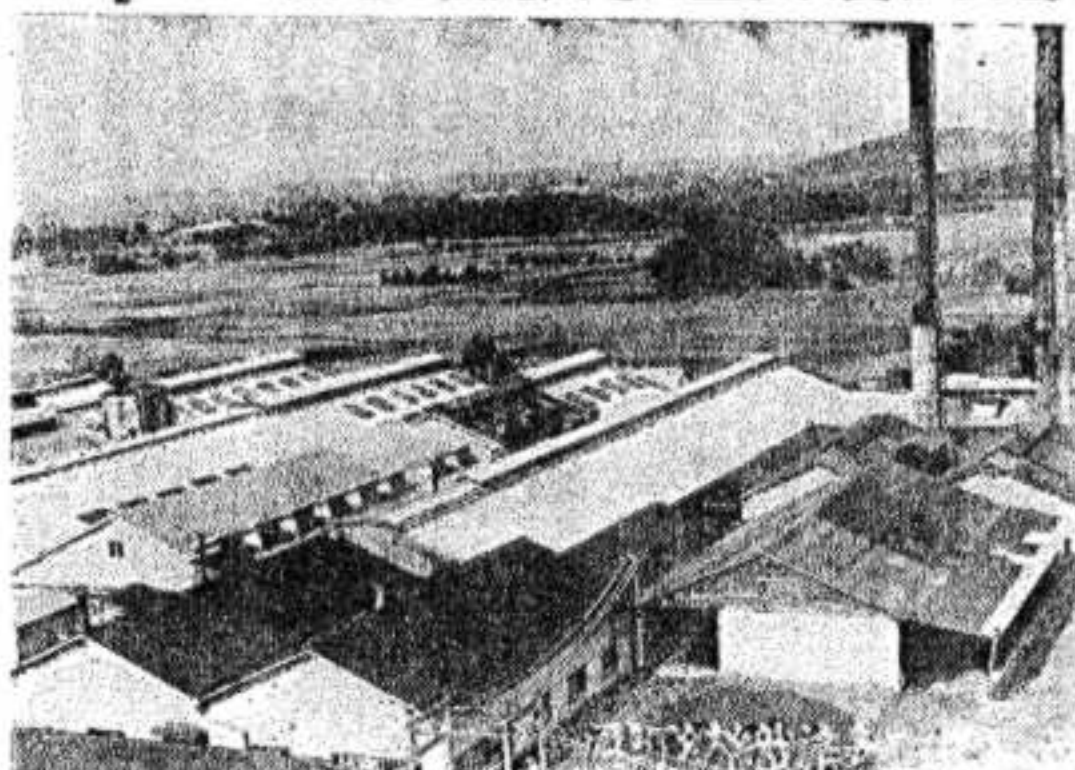


昭和10年ごろの原町実科高等女学校正門。(現在の原町第一中学校)町立で修業年限は4年。昭和23年に県立の相馬商業学校に吸収合併された。



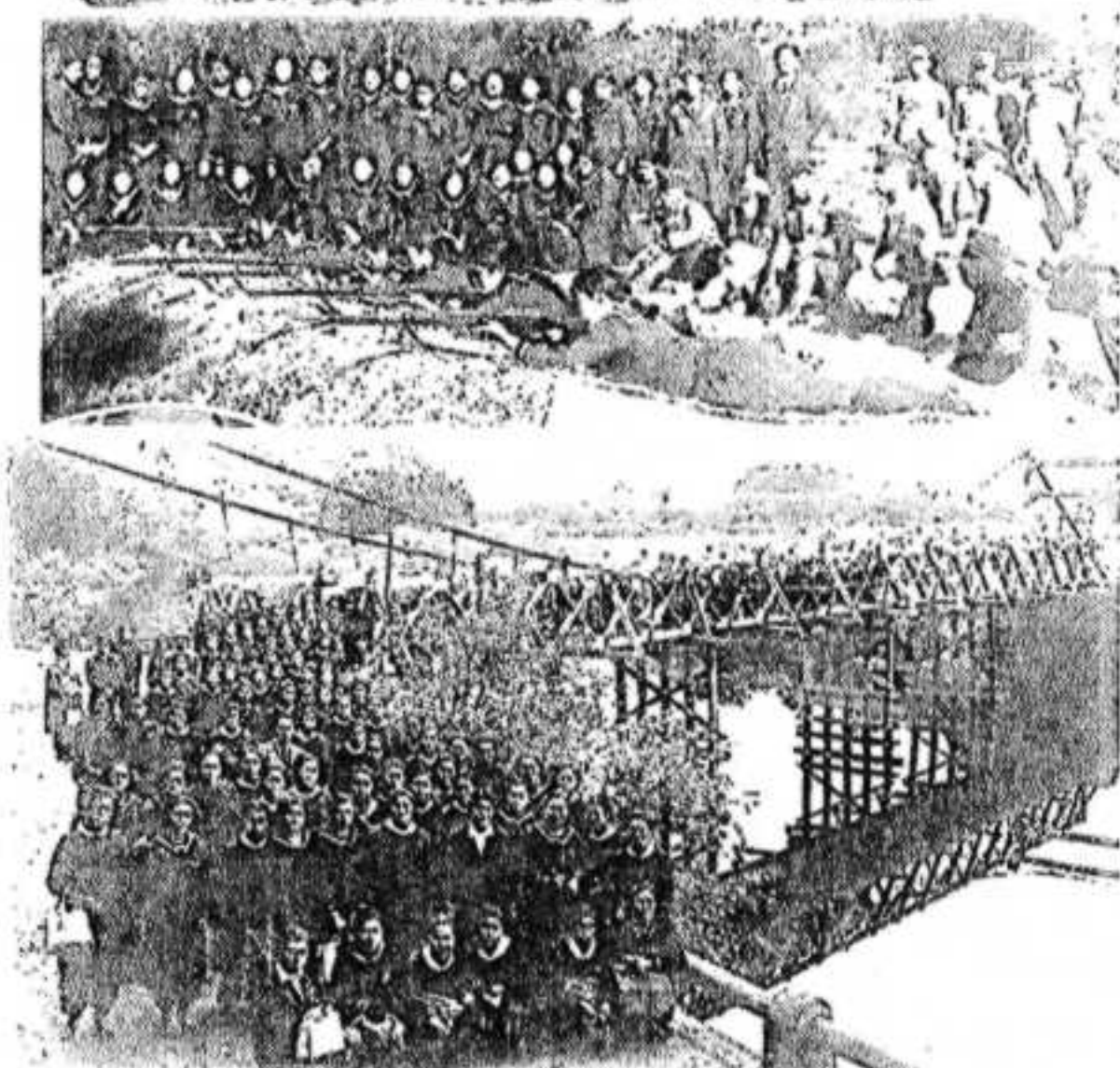
昭和9年秋の6回生の遠足。まだ頭部しかできていなかった相馬市の百尺観音へ。

原町紡績株式会社とは通称**原紡**とよばれ、1916(大正5)年東京織物会社が、現在の国見団地の所に工場を建て、1920(大正9)年原町紡績に経営が移り、1966(昭和41)年青木染工株式会社がこれを継承、織布染色の業務で従業員数451名、敷地面積10万㎡の一大工場でした。1981(昭和56)年工場は廃止され、敷地は国見団地に生まれ変わった。



原町紡績工場

太平洋戦争が激化し原女生も授業よりも動員や、さらに戦争に備えて行進、射撃、手旗信号などの訓練が連日行われた。



(前面から) 爆裂の瞬間、これで終わりだ、と
 さてこの十二発目が曲者でした。午後三時頃、最後の攻撃でした。防空壕に至近弾が落ちたのです。物凄く爆裂音と爆風、防空頭巾も壕の中に落ちて腰掛けも吹っ飛びました。生き埋めに備えての熊手を握っていた手も空しく、瞬間、これで終わりだと思っただけです。防空壕の方には完全にどどと崩れました。でも一方に明るみが覗いていたのです。将に九死に一生を得た思いでした。一屯爆弾とか大きな穴には地下水がゴボゴボと湧き出て居りました。

原ノ町駅近くの家も大被害
 家に帰れば機銃掃射の弾丸が屋根を突き抜けて畳や蒲団に突き刺さって居りました。駅に近い為、庭には線路の枕木が飛んで来て突き刺さって居りました。駅の線路は飴の様に曲がって架線橋にからまって居る惨状でした。

写真左上・昭和十二年、淡佐海岸の河口付近で実弾射撃訓練をうける原女生
 写真左下・戦争が終わった翌年の昭和二十一年秋の原女の遠足。吊り橋だった原町区石神の栢ノ木(かやのき)橋で、引率の先生だった星さんは中央左におられます。

平家の都落ちも斯くや...
 私はその夜、父の実家の信田沢へと向かったのですが、今の仲町の牛越公道もリヤカーや荷車に荷をつけ、大きな風呂敷包みを背負って避難する人々でごった返して居りました。南の空には原紡が炎々と燃え盛り、平家の都落ちも「斯くや...」と思わせるものがありました。そして五日後、戦いは終わりました。(星千枝さんは原町区に在住。昭和二十年四月から四十四年まで原町女学校と原町高等学校国語科教諭として勤務されました。八十三歳です)

○「私の戦争体験③星千枝さん」は、如何だったでしょう。61年前、この原町で、あの原町一中や原ノ町駅がアメリカ軍の空襲にあったなんて、とても信じられません。そんなことを知る人も少なくなりました。今こそ戦争を体験された方々が、戦争の愚かさを大いに話し、若い人たちに伝えていただきたいものです。こうして活字に記しておけば、いつか読んでくれることでしょう。

事務局より

♥この郵送封筒には次の4種類のものが入っています。

- ①「九条フログはらまち」No.16(1月14日号) ②「九条フログはらまち」No.17(1月17日号)
 - ③2月3日の「はらまち九条の会」総会要項 ④2月3日の「高田健氏講演会」チラシ
- 当日総会にご持参ください。 お知り合いの方にもぜひお薦めください。

◆数は力です。「はらまち九条の会」へ、お知り合いの方の**入会を勧めてください**。政党を問わず「憲法9条は今ままで変えなくともいい」という方も、意外と多いはず。南相馬市民有権者の半数が会員になってもおかしくはありません。現実そんな町があるそうです。

◆世界に誇れる南相馬市小高区出身の偉人**鈴木安蔵の劇映画、『日本の青空』**の制作協力チケット(1枚1,000円)購入などのお問い合わせは、事務局員までどうぞ!

1月16日、南相馬市議会議員さん26名のうち16名が賛同されて、大口でチケットを購入されました。映画は3月に完成し、小高区で全国初公開。**原町区での一般上映会は**

4月27日(金)夜、南相馬市民会館(ゆめはっと)で開催予定で現在交渉中です。

◆<事務局員連絡先>

- ・山崎 TEL22-8631
- ・石田 TEL22-4037
- ・早坂 TEL22-0326
- ・井上 TEL22-7511
- ・番場 TEL22-0715